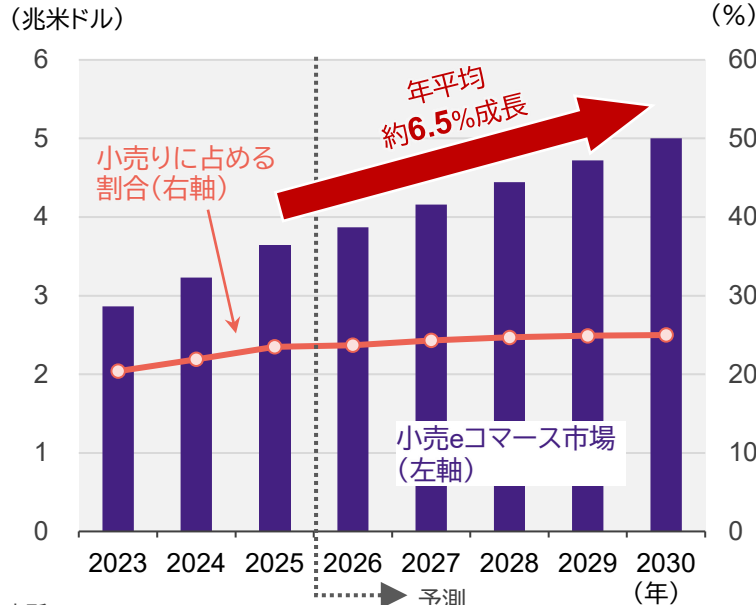


- インターネット上で商品やサービスの売買を行うeコマースは、企業と消費者間、企業間、消費者間の取引に使われています。
- eコマースは、消費者が実物を確認できないなどといったデメリットがあるものの、いつでも、どこでも、世界中の商品やサービスを購入できるといったメリットがあります。
- 店舗側にも、設備投資費用が抑えられ、ターゲットを絞った商品展開やブランディングを行うことにより、売上増が見込めるといったメリットがあります。

世界の小売eコマース市場の推移

- eコマースは、モバイル(スマートフォンやノート型パソコン)の普及もあり、世界の小売市場全体に占める割合は、2024年の約21%が、2030年には約25%に拡大すると予測されています。
- 2025年取引額上位3カ国の2030年までの平均成長率は、1位米国約5%、2位中国約7%、3位日本約7%となっています。
- 2025年のeコマース利用者数は約33億人に達し、普及率は約54%となっています。今後も継続的な成長が見込まれています。

2023年~2030年(2026年以降は予測)



出所: Statista Market Insights

※上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

米国で利用されているeコマースサイト構築ツールのシェア

- eコマースサイトを構築するには、消費者が特定の製品を探ることができる検索機能や注文を管理する買い物かご機能、決済機能などを搭載しなければなりません。
- 従来はプログラミングなど専門知識が必要でしたが、AI(人工知能)も搭載されているeコマースサイトの構築ツールを利用することで、短時間で簡単に環境構築ができるようになりました。
- ここでは、取引額が多い米国を紹介します。

Shopify (開発はShopify(カナダ))

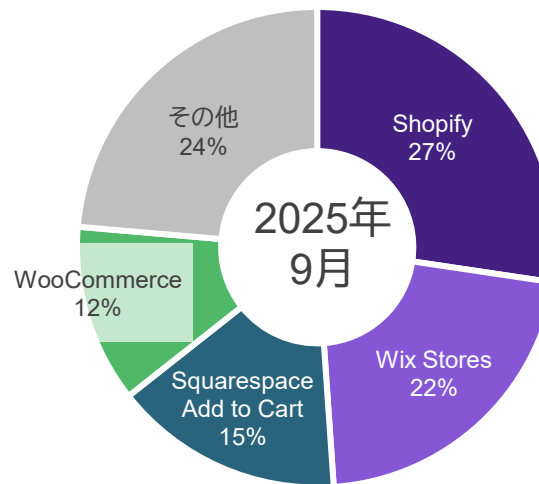
- 個人から企業向けまで、幅広いビジネスのeコマースサイト構築に対応し、世界175カ国以上で利用されています。
- 運営に必要な機能が標準装備され、多言語対応の機能のほか、AIワークフローツール、チャットボットの管理機能も提供しています。

Wix Stores (開発はWix(イスラエル))

- ホームページ作成ツール“Wix”のeコマースサイト版で、ドラッグ&ドロップで簡単に構築でき、汎用ホームページの中にオンラインショップ機能を持たせることもできます。
- AIを活用したマーケティングエージェントにより、ビジネスの成長を支援する機能を提供しています。

Squarespace Add to Cart (開発はSquarespace(米国))

- クラウド型WEBサイト構築プラットフォームで、eコマースサイトへも対応しており、デザイン性の高いテンプレートなどをドラッグ&ドロップして簡単に構築できます。
- Squarespace(WEBサイトを制作するプラットフォーム)では、AIを活用し、ブランドイメージに即したコピーや商品説明、メール作成などを支援します。



出所: BuiltWith

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

※公開情報など信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成。情報の正確性・完全性について当社が保証するものではありません。

ページ記載の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。